

平成29年度 秋田県総合政策審議会 第2回人・もの交流拡大部会 議事要旨

- 1 日 時 平成29年8月8日(火) 午後1時30分～午後3時45分
- 2 場 所 ルポールみずほ「ききょう」
- 3 出席者

○人・もの交流拡大部会委員(旧観光・交通部会委員)

一般社団法人横手市観光協会 会長 打川 敦

株式会社SKO若女将、男鹿温泉郷女将会 会長 佐藤 浩世

秋田県演劇団体連盟 理事長、一般社団法人秋田県芸術文化協会 理事 富橋 信孝

株式会社アジア・メディアプロモーション 代表取締役 渡邊 竜一

秋田大学教育文化学部 准教授 伊藤 恵造

秋田大学大学院理工学研究科 准教授 日野 智

□県

観光文化スポーツ部 次長 猿橋 進

〃 次長 嘉藤 正和

他 部各課室長 等

4 部会長あいさつ

□杉山観光戦略課戦略企画班長

はじめに、打川部会長に、ご挨拶をお願いします。

○打川部会長

第1回で突然欠席することとなり、関係の皆様、部会委員の皆様、部会長代理を務めていただいた渡邊委員にはご迷惑をおかけした。

今年の審議会は、第3期プランを策定するというので、タイトな日程かつ濃い内容という中で第1回を欠席したのは忸怩たる思いでいたるところである。

今回は1回目の参加となるので、頑張っていきたい。

□杉山観光戦略課戦略企画班長

それでは、次第3の議事に移らせていただく。ここからは打川部会長に進行をお願いします。

5 議事

○打川部会長

次第に沿って進める前に一言申し添える。審議内容は、議事録としてウェブサイトに掲載されるが、その際には委員名を公開するのでご了承願う。

それでは、次第の3(1)の「第1回人・もの交流拡大部会における各委員の発言要旨について」事務局から説明をお願いします。

(1) 第1回人・もの交流拡大部会における各委員の発言要旨について

□益子観光戦略課長
(資料により説明)

○打川部会長

発言要旨については委員の皆様にも郵送もされていると思うが、何か加えるべき点や、削除する点はないか。

(特になし)

次に次第3議事の(2)『「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」策定に向けた意見交換について』事務局から説明をお願いします。

(2)「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」策定に向けた意見交換について

□阪場観光振興課長

最初に、骨子案たたき台はまだ作業途中であり、十分にオーソライズされていないものであることをご了承願う。

(資料2 施策1：秋田の魅力を生かした観光の振興 により説明)

□須田港湾空港課長

(資料2 施策1方向性⑤：外港クルーズ船等の誘致と受入環境の整備 により説明)

○打川部会長

施策1「秋田の魅力を生かした観光の振興」について、事務局より説明いただいたが、ご意見やご提案をいただきたい。方向性①の取組②「東北各県のコンテンツの融合による広域周遊ルートの形成」について、佐藤委員からお願いします。

○佐藤委員

周遊してもらいたいが、男鹿はどん詰まりの半島であり、交通の便もあまり良くなく、うまく機能していない感じがする。男鹿だけではないと思うが、周遊ルートの形成をうまくしてもらえれば、広く大きな秋田県を上手に回ってもらえると思う。

○打川部会長

距離的・時間的ハンディキャップがあるのが秋田県で、その中で一番遠いのが男鹿であるが、逆に男鹿にあるなまはげは最大のキラコンテンツとなりうるし、男鹿に人を運べれば、まんべんなく県内の他の地域に波及すると思う。そういった意味で男鹿へのアクセスや男鹿をメインとした商品に関わる対策が大事と思うが、佐藤委員いかがか。

○佐藤委員

秋田県の観光において、自分が生まれてからずっとそう言われ続けている男鹿であった。確かになまはげの知名度は昔からあったが、私は男鹿がなまはげを安売りしすぎたのではないか

と思っている。横手でもなまはげが見られるようではダメであったのではないかと最近感じている。男鹿は交通の便があまり良くなく、JRでも良い電車を導入してもらっているが、同じ電車で来ると同じ駅で帰るといったようにうまく機能していないと思う。男鹿だけでなく、秋田県の内陸線でも同様であると思うが、利用したお客様には満足いただけるが、微妙な感じがする。

○打川部会長

秋田県は都市型観光と異なり、交通アクセスが悪い所に魅力的な観光地が立地している。例えば、乳頭温泉だったり、秋の宮温泉郷だったり、悔しかったら行ってみろというような所に良いものがある。全国様々な秘境や観光地をご存じの渡邊委員からご意見を願います。

○渡邊委員

観光コンテンツづくりの推進施策は良いものであり、他のものにも関係してくると思うが、ぜひ記載いただきたい所がある。コンテンツホルダーが県内事業者であって欲しいと思っている。秋田県の素材を使って県外事業者が儲けている事例が多い。私は、観光コンテンツ推進やDMO、食に関しても県内事業者で取り組んで欲しい。そうならなければ、前回発言させていただいた県内の観光消費額の向上に繋がりにくいいため、対策をお願いしたい。

○富橋委員

国民文化祭の会議の席で、国民文化祭が1ヶ月に渡って様々な地域で開催されるため、こういうルートで回ったら、こういった部分が見られるのではないかとといった議題があった。例えば、秋田のどこをどう回るかという県内の周遊ルートの事例を作れないか。旅行代理店が作っているものと言われればそれまでであるが、県としてスピードはないが秋田の良い所をゆっくり見て回れるというような事例を作成できないか。

□阪場観光振興課長

旅行会社レベルでは、確かにゴールデンルートが存在する。当課で「アキタノ NAVI」を展開しており、ルートの紹介をさせていただいている。しかし、ご指摘があるということは周知が足りないと実感する。旅行会社と連携して周知等の対策を講じていく必要があると思う。

渡邊委員のご指摘にもあったように、お金を落とすしていくためには秋田県だけでなく東北各県の広域的な周遊ルートなどを県外や国外の広告代理店などに紹介し、なるべくお金を落としてもらう仕組みを作る必要があると考えている。

○打川部会長

シーズンごとに夏のモデルコースや冬のモデルコースなどの設定、または、交通手段として公共交通機関以外のレンタカーやレンタサイクル、レンタバイクの手段の付与などにより選択肢が増えることは良いと思う。

方向性②に受入態勢として二次アクセスのあり方や利便性向上や「アキタノ NAVI」運用の仕方などの記載がある。「アキタノ NAVI」について、私はあまり存じないが、委員の方々は利

用されているか。(委員から回答なし) 今日会議が終わったら、すぐインストールして利用できるようにする。

これらの施策も先ほど渡邊委員からお話があったように、地元型のランドオペレーターの育成など、地元というワードを入れて欲しい。

続いて、方向性③「ターゲットを見据えた誘客プロモーションの展開」についてであるが、首都圏等ということで、なるべく絞り込んだプロモーションの計画と理解する。ターゲットの見方として、国ごとのターゲット設定だけではなく、日本に2回目、3回目など複数回来る方をターゲットとできないか。東南アジアなどの日本にたくさん来ている外国人の方に次回は秋田に来てもらう取組もできるのではないか。例えば、札幌の雪祭りにおける秋田の小正月行事の紹介や仙台空港の客に対する紹介などのプロモーションづくりをしてもらえれば、国を限定せず、より効果がある取組ができるのではないかと考えている。

○渡邊委員

方向性③と④の内容が被っているように感じる。方向性③が方向性のビジョンで、方向性④はその手段となっているのではないか。ターゲットを決めて、メディアを選択するということが、内容がどちらも被っている気がしている。

また、口コミでの宣伝として SNS でのパワーが非常に強いため、県内にいる外国人を含めた情報発信手段の活用を強めに記載して欲しい。他県では、新潟県湯沢町の地元食堂のタイ人の奥さんや千葉のドラゴンファームの娘さんがタイへの SNS を活用した情報発信をしている例があり、これらは地元の誘客に強く繋がっているものとなっている。県内に在住している外国人や留学生などに情報発信に協力してもらうことも重要と考える。

○打川部会長

方向性⑤「外航クルーズ船等の誘致と受入環境の整備」に移らせていただく。外港クルーズ船も非常に多くなっているが、この受入環境整備についていかがか。

実際に来港した方々が、県内のどういった所に行っているのか教えて欲しい。

□須田港湾空港課長

今のところ、角館、男鹿を中心としたルートが代表的なものとなっている。最近では稲庭うどんの体験なども出始めている。

○打川部会長

竿燈祭り期間中は、竿燈祭りを見て夜は船に帰るのか。

□須田港湾空港課長

竿燈は夜の祭りのため、日中は他の観光地に出かけていき、その帰りの夜に竿燈を見るのがメインのルートとなっている。

○打川部会長

2隻同時着岸が可能となれば、より増えていくのか。

□須田港湾空港課長

日本海側の寄港回数は、鳥取の境港で約60回、金沢港で約50回、博多港については約350回となっている。これらの港が必ずしも3バース、4バースあるわけではないため、秋田の目標としては2隻着岸としている。竿燈祭り期間中は予約が非常に多く、現状でもかなりの予約を断っており、竿燈期間中の予約については数年先まで埋まっている状況である。まずはこの解消のため、2隻同時着岸を目標と考えている。

○富橋委員

セリオン付近にある貨物線を活用したと聞いているが、どのようなものか。

□須田港湾空港課長

あきたクルーズ振興協議会で市と連携してJRに協力要請をしたもので、竿燈期間中に限定したトライアル運行として4日間実施した。8月3日から5日は秋田港から秋田駅の1往復、最終日6日のダイヤモンドプリンセスの際は、2往復実施した。今年はトライアル運行として課題問題点の抽出を目的としており、来年の本格運行に向けての試行であった。

○富橋委員

利用者は多かったのか。

□須田港湾空港課長

クルーズ船は、1年以上前に計画を策定するが、今回はシーズン途中での計画となり、PRの時間が足りなかった。実際のところ延べ417名という残念な結果となった。来年からは事前PRをきちんと実施し、お客様に選択してもらえるようにすることで、利用率は伸びると考えている。

○富橋委員

面白い試みと思っている。ただ、クルーズ船の乗客だけでなく、地元土崎の方々にも利用させる取組はないのか。

□須田港湾空港課長

私としても地元の方々へのPRになるため、地元土崎の方々も乗せてもらえるようにJRには要望したが、JRとして乗客の安全性を確保しながら運行する体制の確立が困難なようであった。そのため、まずはクルーズ船の乗客を対象とした運用となった。

□猿橋次長

事務局として、方向性③「ターゲットを見据えた誘客プロモーションの展開」はどこから客

を連れてくるのか、どこでプロモーションをするのかがテーマであり、一方で方向性④「多様なメディアや新たな手法を活用した秋田ファンの拡大」はどのようなメディアとツールを活用して発信するのかというテーマであるといった、それぞれの整理で先ほど説明をさせていただいた。今後、主な取組を精査し、はっきりと区別がわかる取組をやっていききたい。

また、先ほど渡邊委員からご意見いただいた県内外国人からの情報発信に関するお話は非常に興味深いものと感じたため、今後の施策に取り入れていきたいと考える。

○打川部会長

横手では台湾の客が多くなっている。台湾から来た留学生が祭りなどの体験を台湾に情報発信をすることにより、さらなる誘客となっている。台湾からの客が2倍から3倍となっており、県内の外国人への取組が重要なものであると感じている。

次に施策2「秋田のうまいものの商品力向上と販路拡大」について説明をお願いします。

□嘉藤次長

施策2は秋田うまいもの販売課が所管しているが、課長が出張による欠席のため、代わって説明させていただく。

(資料2 施策2：秋田のうまいものの商品力向上と販路拡大 により説明)

○打川部会長

施策2は食というテーマであるが、何か意見はないか。

方向性①の取組①で「秋田を代表する食品ブランドの確立と強化」と挙げているが、秋田を代表する食品となると、いぶりがっこやお酒、発酵食品、麴などがあり、これらを秋田としてどう独自の色を付けるかが重要となると考える。それと併せる形での新商品の開発という計画だと判断している。私の地元の麴屋ではあめこうじを活用した甘酒が売れており、手応えを感じているようである。甘くて美味しい甘酒ができるようである。

また、方向性③『民間企業等と連携した秋田の「食」の磨き上げと販路の拡大』とあるが、新潟県魚沼の八海醸造で独自運営している「魚沼の里」というテーマパークを例に挙げると、魚沼の里は、他の道の駅と比較できないくらいの規模となっている。お酒全般に加えて甘酒や麴漬けや酒粕の漬け物などがそろっており、さらに雪室や体験コーナーもあり、バスが1日に50台発着するくらい大変賑わっているテーマパークとなっている。このような施設が民間主導で交通の便の良い所にできればと考えている。八海山の甘酒も銀座シックスなどで大々的に売られており、パッケージもきれいで凝ったものとなっている。

ただ、味については、秋田のあめこうじの甘酒が勝っていると思うため、八海山の甘酒などの成功例を参考にして、もっと尖った取組ができれば良いと考える。食が最も消費動向に直結するものであるため、今後の施策に期待している。

○渡邊委員

5月のテレビ東京系のガイアの夜明けという番組で千葉県神崎の道の駅が「発酵の里」として紹介されていたが、小さな町であるが、味噌や醤油を作っている醸造元があり、集客力のあ

る町となっている。この道の駅は日本全国の発酵食品を集めており、県内食品との比較対象となっている。他県にも多くの発酵食品があるため、他県と比較して秋田の食品はどうであるかPRしていくことが重要と考える。岡山県に行くと秋田はすごく目立った食品や料理があるとされる。岡山県は、秋田県よりも魚や柑橘系果物などの食材が豊富でなんでも揃っているが、これといったものがないようである。秋田は個々の食材・食品に光っているものがあり、ブランディングができていることから、これらを他と比較してどうなのかという打ち出し方をしていっても良いと考えている。

○打川部会長

具体的に記載されている食品・食材がいぶりがっこのみである。秋田の食文化として、単独でブランド形成ができているものがたくさんあるため、計画にもきりたんぼや稲庭うどん、男鹿の石焼き、しょつつるなど他県にはなく、味が一級品の食品を明記しても良いのではないかと考えている。これらメジャー食品の更なるブランド化を目指すことで、動向が見えやすくなるのではないかと。

□嘉藤次長

渡邊委員から「発酵の里」のお話と打川部会長から「魚沼の里」のお話をいただいたが、施策2の方向性④の中にある取組③「県産食品の輸出とインバウンド誘客の連携強化」の主な取組で、『魅せる酒蔵などを本県ならではの誘客ツールとする「発酵ツーリズム」の構築』と書いてあるように、酒蔵やしょつつる、いぶりがっこなど発酵文化がたくさんあるため、ただ食べてもらうだけでなく、製造過程を見てもらい、様々な苦労や物語を感じてもらいながら購入してもらおうといった秋田を巡りながらの体験型のコース作りや、受入環境の整備として施設のトイレ整備や展示スペースの確保などを実施し、秋田の発酵ツーリズムの売り出しを検討していきたい。

先ほどお話しがあった銀座シックスでは秋田のものが少ない実情があり、こういった所で売ってもらえるように秋田の食品のブランド化を目指したい。担当課でもブランド化を目指しているものがいくつかあり、今後全国に秋田独自のものとして売り出していけるものを計画に記載していきたい。

○打川部会長

それでは、施策3「文化の振興と文化による地域の元気創出」の説明をお願いします。

□石黒文化振興課長

(資料2 施策3：文化の振興と文化による地域の元気創出 により説明)

○打川部会長

文化については、人材の育成や団体の保護・育成が一番のメインテーマとなっており、後は新文化施設が次ぐテーマとなっている。富橋委員からご意見ををお願いします。

○富橋委員

新文化施設の設計に関するワークショップに参加しているが、今まさにハードの面と運営管理の話が出てくるところである。ワークショップの委員はそれぞれの分野でかなり活躍されている方々で、文化団体に所属している方々も多い。こういった方々の意見や県民の声をただ聞いたというだけでなく、広報などを活用して意見を反映させていることが見える形にして欲しい。県民からの注目度も高く、いろんな意見もある新文化施設であるため、意見が取り入れられた事を県民に見える形にすることで理解度が違ってくると思っている。

また、舞踊舞踏フェスティバルの開催などで来年度の会場を押さえる際に、県民会館が5月に終わるということで、来年の秋ころの文化会館の予約が非常に取りづらい状況となっている。この計画の主な取組に「県民会館閉館中における文化団体の活動を支援」と書かれているが、具体的な支援としては、実際に施設申込に行っても予約が取れない場合に他の施設を紹介できる体制を整えることで、不満の解消に繋がるのではないかと考える。

他には、記載のあるプレ事業・オープニングイベントは運営管理計画と密接に関わってくると思うが、実際にオープニングイベントをやろうとした時には、現状ではオペットを使ったオペラやクラシックバレエなどの大規模な生演奏はなかなか見ることができないが、今回の新文化施設の大ホールができることで実現可能となる。仮に海外の団体や国内のトップクラスの団体をツアーなどで呼ぶには3年から4年前に手を挙げなければいけないため、運営管理も含めた議論を早めに実施していただけたらと考えている。

□石黒文化振興課長

新文化施設については、富橋委員にもご参加いただいているワークショップで検討しているところであり、経費の面から全てを反映させることは困難であるが、ワークショップでご提言いただいたものについては、できる限り反映できるように努めたいと考えている。どこに反映されているかも見せられるようにしたい。

また、舞踊舞踏フェスティバルのお話でもあったように、県民会館の閉館に伴って、今後3年間はホールの予約が取りづらい状況が続くと思うが、現在それぞれの芸術文化団体の方々から、どういう状況なのか、あるいはどういった部分が困ることになるのか、何に支援することで3年間の活動の質を落とさずに済むのかなどの支援策に対する意見をいただいている。団体により意見は様々であり、ホールの確保を公平かつ安定的にする仕組みや、他の施設に回った際のデメリットに対するフォローの仕組みが必要であるという方々もいるし、ホールを利用しなくても文化振興が可能なのではないかという意見も出てきている。それぞれの団体と調整しながら、最善な策を検討していきたい。

オープン時のイベントについては、来年には運営管理計画を策定し、しっかりと準備をしてきたい。

○打川部会長

文化情報の発信が不足しているように感じる。「新・秋田の行事」が昨年大館市で今年は大仙市で開催されるとのことだが、どんなものが、どんな風にあるのかが見えづらい。これからPRなのかもしれないが、もう少し情報発信に力を入れるべきである。

方向性③「本県文化の中核拠点となる文化施設の整備の推進」の取組①「県・市連携文化施設の整備の促進」の文章はもう少し情報量を増やしても良いと感じる。施設の詳細までは必要ないが、大ホールの運営だけでなく、県全体としての文化施設という文化の拠点としての位置づけもあることから、各市町村との関係やどう拠点として使っていくかなどの方向性の示唆が欲しい。

□石黒文化振興課長

お二人の委員からのご指摘は十分に注意し、対応していきたい。

打川部会長からお話のあった「新・秋田の行事」については最近になってようやく出る行事が決まって動き出している所であり、今後観光サイドと連携しながらPRに力を入れていく。

また、方向性③の記載については、修正し次回お見せできればと考えている。

○打川部会長

それでは、施策4『「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大』について説明をお願いする。

□飯坂スポーツ振興課長

(資料2 施策4:「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大 により説明)

○打川部会長

スポーツをテーマとしているが、すそ野が広く、様々な内容が含まれている。

方向性①「東京オリ・パラ等を契機とした、スポーツを通じた地域活性化と交流人口の拡大」については、様々な動きが活発化しているが、何かご意見ないか。

冬季オリンピックを北東北レベルでやりたいという話もずいぶん前から聞いている。冬季オリンピックを今ここで手を挙げないと日本でしばらく取れないのではないかという話もある。北東北としての冬季オリンピックなどについて、秋田県として検討したことはあるか。

□飯坂スポーツ振興課長

オリンピック開催となると施設の条件のハードルが高くなる問題がある。そういった中で、かつて冬季オリンピックを開催した札幌が手を挙げたいという話が数年前にあった。しかし、来年が平昌、その4年後に北京と、アジアで2回連続の開催が決まっているため、3回連続となることは不可能なようである。その後の動向を見つつ、国のスポーツ庁と札幌間では水面下での検討をしていると思われるが、東北としては検討していないのが現状である。

○伊藤委員

交流人口の拡大という言葉が良く使われている中で、東京オリンピック・パラリンピックやバドミントンの大会では、国内外という言葉が使われている。

スタジアム整備の検討会議やバスケットボールのノーザンハピネッツのアリーナ構想など

を聞いていると、「交流人口」の内容をもう少ししっかりと検討しても良いように感じる。つまり、誰がその施設を使いに来るのかという点が重要であると思っている。例えば、サッカーのブラウブリッツとバスケットボールのハピネッツを見に来る人の傾向は異なっているのではないかと思っており、同じスポーツであっても、サッカーかバスケットボールかによって、対戦相手も含めて集う人たちが異なっている可能性がある。エリアを活用していく際に観る人の傾向分析がはっきりしていなければ、地域活性化などの施策が具体的に展開しづらいのではないかと思っている。

都市的地域のクラブを対象とした調査でバレーボールと野球をやっている人たちを比較したところ、全く異なる所から人が集まっていることが明らかになった。バレーボールは主婦が中心となっており、ほぼ行政区内で活動をしている。その理由は家に帰って家事をする必要があるためであり、子供や夫がいない限られた時間内に近くの施設でバレーボールをしたいからである。野球の場合は、20代・30代の若者が普段の生活圏でない様々な所から来てやることが多い。これらは、プレーする側の集まりの例であるが、このように種目によって傾向が異なっている。

交流人口をテーマとした時に、東京オリンピック・パラリンピック後の地域ごとの人の動きを分析していけたら、面白いのではないか。

□飯坂スポーツ振興課長

スポーツによる交流人口の拡大といっても様々なパターンが想定される。例の1つとしてはプロスポーツによるもので、サッカーのブラウブリッツがJ2に上がれば、隣の山形県から2千人から3千人規模のサポーターが来県することが予想される。その他として、秋田の地域資源を生かしたマラソンやサイクリングなどのスポーツツーリズムを楽しむための来県者など、様々な例が挙げられる。交流人口の拡大を図るには様々な切り口があり、それらを広げていこうと事業を実施しているところであり、伊藤委員からご提案のあった競技種目による流動人口の違いも今後検討事項の1つとしていきたい。

○打川部会長

方向性②「全国や世界のひのき舞台で活躍できる選手の発掘と育成・強化」ということで、育成プログラムに力を入れる計画となっているが、ご意見はあるか。

フェンシングなど具体的なスポーツを記載することはできないか。全ての競技を底上げするのは難しいのはもちろんであるが、もう1つ踏み込んだ形で具体的に記載できればわかりやすいと思う。

□飯坂スポーツ振興課長

フェンシングは平成19年からタレント発掘を実施し、その後にライフル射撃とスピードスケートで実施しているが、これらは競技団体の希望により実施したものであり、地方競技団体との協力が必要不可欠となる事業である。タレント発掘事業は、現状では個人競技が対象となっており、団体競技の育成・発掘ができるシステムとなっていない。計画に具体的な競技を記載していない理由は、個人競技であるフェンシングをモデルとして他の競技に広げたいという

思いがあること、また、団体競技としてのタレント発掘についてもどうしていくかを併せて検討していきたいという思いによるものである。これらを含めて「タレント発掘・育成、一貫指導の体制の強化」としているためにこのような記載となっている。

○打川部会長

方向性③「ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進」は、様々な活動を応援していかうという考え方であると思う。

今年、ねんりんピックが開催されるわけであり、お年寄りの国体の位置づけと思われるが、これを活用した取組は何かあるか。

また、マラソンや駅伝などたくさんの人が参加できる大会を推進する取組の記載が欲しい。マラソン大会の運営側としては、県からの協力や計画などがないと警察との許可取得やルート設定の交渉が困難となることがある。県としての計画に乗せてもらえると運営しやすくなると思うが、いかがか。

□飯坂スポーツ振興課長

それについては、方向性①の取組①の主な取組「地域資源を活用したスポーツ大会等の創出・開催への支援」で検討していきたいと思い、記載している。

地域資源を活用した大会の開催については、県として大会支援事業で支援をしており、また、秋田の独自のものをやりたいといった時には企画検証事業ということで100%補助の支援をしている。警察方面等との交渉があれば、県としても協力・支援をしていきたいと考えている。

秋田県の成人の週1回以上のスポーツ実施率が49.5%となっており、目標の65%には届かないが、国よりは高い水準にある。ただ、一方で70代の実施率だけが国よりも6ポイントマイナスとなっている。今回のねんりんピックを契機として70代の方々にもスポーツの習慣を身につけてもらえるような改善に取り組んでいきたいと考えている。

○伊藤委員

方向性③と④について、東京オリンピック・パラリンピックに向けた期間についての取組内容は国のスポーツ基本計画も勘案しており、問題はないと思う。

スタジアムの建設については、ブラウブリッツというサッカーチームが機運を高めたという話や、スタジアムを建設する方向の報道もある。数年前にJ1クラブのジュビロ磐田の現監督である名波氏が、本県の八橋球技場を訪れた時に「サッカー後進県の秋田で」と半分冗談・半分本気で挨拶されたことがあった。確かに県内ではサッカーが盛り上がり、サッカーの競技者も少なくないが、成績という面では、例えば高校サッカーではなかなか勝てない状況である。その一方でブラウブリッツが好調であることは大変素晴らしく感じている。

しかし、サッカーの成績だけで優劣を判断するのはどうなのかと考えていて、価値の転換を迫ることの必要性を感じている。日本一や世界一を目指せば良いというのではなく、もう一つの選択肢を秋田から発信できれば良いのではないか。哲学者の内山節氏が今後の日本を変えるのは「あきた（飽きた）」であると発言しているように、「もうあきた（飽きた）」が今後のキ

ワードとなっていくと思っている。より高みを目指すスポーツの世界においてはドーピング等の問題が生じることもあるが、ドーピングによってでも名誉を得たいという欲求はなかなか止められないものであり、それを止めることができる感情があるとすれば、それは「もうあきた（飽きた）」という感情であると思っている。今後、秋田としてもこのような新たな観点が必要ではないか。高校野球を例にとると、補欠がスタンドでの試合の応援だけでは「もうあきた（飽きた）」として、補欠の聖地を八橋の野球場に作るなど、強ければ良いというのとは別のもう1つの選択肢を設けるのはいかがか。

前回の専門部会で、日本の若いサッカー選手がアジア圏に流出しているという話をさせてもらったが、彼らは一定の地域に定住できない不安を抱えている。彼らが浮遊した生活を送るのは「もうあきた（飽きた）」と考えて定住先を探す時に、定住の地として秋田県を選んでもらう取組も良いと考える。

計画の中で具体的に記載して欲しいということではないが、例えばサッカーの「後進県」と言われる秋田でスタジアム利用などの他とは異なる価値や選択肢を見せることができたら良いと考えている。

○打川部会長

スタジアム整備のあり方について、計画に記載はできないか。

□飯坂スポーツ振興課長

スタジアム整備のあり方検討については、我々行政で確固たる意見があるわけではなく、委員の方々や県民の方々、県議会議員から様々なご意見とご提案をいただきながら方向性を探っている段階である。そのため、現段階で具体的な内容を計画に盛り込んでしまうと誤解を生む恐れがある。

□猿橋次長

伊藤委員がおっしゃるようにスポーツの価値を様々な角度でスポットを当て、成績至上主義以外の観点で、スポーツをすることで健康や幸せになれるような取組は面白い意見であるが、4年間という計画のスパンでプランに盛り込むのは難しい。しかし、今後施策を推進していく中でご提案を意識しながら取り組んでいきたい。

○打川部会長

横手市でドリームカップというスポーツ大会を毎年開いており、小学生5年生以下のレギュラーではない人達が参加する大会で、北東北三県から多くのチームが参加している。種目としては、サッカーと野球、バレー、バスケットボールの4つとなっている。このような大会が多くなれば、レギュラーではない人達の活躍の場を増やせるのではないかと思う。

続いて、施策5「県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進」について説明をお願いします。

□石川建設部参事兼道路課長

(資料2 施策5：県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進 により説明)

○打川部会長

道路について、ご意見やご提案をお願いします。

○日野委員

道路と公共交通の施策をはっきりと分けるべきなのか疑問に感じている。公益的なものと身近な生活圏の中での交通に分けていると思われるが、公益的なものとしても高速道路や新幹線、飛行機が該当するし、観光客が来る場合もこれらを使うことがある。おそらく県の内部で担当部署が異なるという話もあると思われるが、人の移動を勘案するとすれば、必ずしも道路と公共交通で施策を分ける必要があるか疑問である。

□高橋交通政策課長

公益交通という観点からは、その手段として新幹線や飛行機、高速道路を活用した高速バスが挙げられる。しかし、施策を組み立てる上で、道路の場合はハード整備が中心となるために施策5としている。一方で、高速バスの運行などソフト的な視点は施策6としている。

日野委員がおっしゃるように県全体の広域交通ネットワークについては共通の課題となっているため、建設部と観光文化スポーツ部とが連携しながら取り組んでいきたい。

○日野委員

施策5は何を作るのか、何をするのかというハード整備に寄り過ぎている。あくまで作るのは取組であって、それによって何ができるといった効果について記載した方が良いと思う。

方向性①の取組②の高速道路の4車線化は実施できるのか伺いたい。交通事故の防止対策として、ワイヤーロープを設けるなど他のやり方は検討してはいかがか。

□石川建設部参事兼道路課長

ワイヤーロープについては国土交通省で進めており、県でも設置を決定した。

高速道路の拡幅については、様々な所から要望が出ているが、4車線化は全ての道路で実施できるわけではなく、区間ごとに検討が必要であると考えている。

○打川部会長

先日ワイヤーロープによる車線増の取組を見てきたが、頑丈そうな作りで良かった。4車線化については、107号線が土砂崩れや雪による影響で通行止めとなることもあり、横手と北上間の議論が活発化してきている。

日野委員がおっしゃるように観光分野としての目的・手段と建設分野としての目的・手段の書きぶりを分けることも良いのではないかと思う。

それでは、施策6「交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築」について説明をお願いします。

□高橋交通政策課長

(資料2 施策6：交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築 により説明)

○打川部会長

道路を除く公共交通機関として、鉄道やフェリー、航空路線、バス路線となっている。ご意見やご提案はないか。

○日野委員

施策5とも関わりがあるかと思うが、鉄道と空港も方向性として分けるのは良いのか疑問に思っている。鉄道は都市間や地域間、地域内のもので、航空路線は地域内の流動はないかもしれないが、人の流動を支える地域外との繋がりに関わる基盤であり、一体としてしっかりと取り組むという方が他の施策との関係性も見えやすいのではないか。

また、この取組の順番についてであるが、何か意味があるのか。

□高橋交通政策課長

方向性の切り分け方として、確かに観光流動や県内企業の経済活動などの推進を目的とする点では、鉄道も航空も違いはないと思われる。しかし、それぞれの取組の目的が異なる施策の体系にあり、県民が理解しやすいモードで分けた方が良いと判断し、方向性①の鉄道等と方向性②の航空はセットで広域交通の括りとして設定した。ただ、委員からのご指摘いただいた一体としての視点は考えていきたい。

取組の順番については、比較的新しい取組を先に記載する組み立てにしている。

○日野委員

最初の取組が重要に見える感じがする。

個人的な意見で申し訳ないが、方向性③の取組①と②の順番を変えることはできないか。取組①が最初であると、現在厳しい状況の生活バス路線をなんとか維持するという内容であり、行政からのメッセージが弱いものを感じる。そうではなく、取組②が主眼で地域の様々な実情に合わせて、バスであったり、鉄道であったり、どういう形で地域の交通を維持していくかを考えた上で、バスが必要であれば、取組①の生活バスの維持確保に取り組むといった流れが自然だと思うので、順番の変更をご検討いただきたい。私個人としては、第一にやるべきことは地域の実情に合った公共交通ネットワークの構築で、その上でそれらを維持していくための具体的な施策が次に来ると思うので、方向性③の中での取組の順番を変えていただけたらと思う。

□高橋交通政策課長

日野委員からご指摘いただいたとおり取組の順番を変更させていただければと思う。

○富橋委員

方向性③の取組③「中心市街地における交通のあり方の検討と取組の推進」についてであるが、県・市連携文化施設のワークショップで、広小路や佐竹小路の一方通行箇所における新しい文化施設へ入っていく車の導線と人の流れを考えると、今のままで良いのかという意見が出

ている。今の和洋高校に駐車場が出来るとなると、佐竹小路から直接出入りするの、一方通行を逆にするのかなどのお話が出てきている。この場での検討とは異なるかもしれないが、こういったワークショップでのまちづくりに関わる意見や話し合いもご検討いただきたい。

□高橋交通政策課長

秋田市中心市街地のあり方検討会というものがあるが、これは県と市の関係部局の職員が集まって検討するもので、あくまで行政だけの集まりである。ただし、実務者として県と市の文化施設所管課も参加している。このテーマのきっかけが県・市連携文化施設が建設されることによるものであって、ワークショップで出された提言については、県と市の文化施設所管課から情報提供を受けながら検討会でも取り入れて議論していきたい。

一方通行の解除について新聞等で先に報道されてしまって、当該検討会でのメインテーマのように見られるが、バスを含めた公共交通のあり方なども含めた幅広い議論をしていきたい。

□猿橋次長

秋田市中心市街地のあり方検討会は基本的に行政で実施しており、県の観光と建設、警察、秋田市で構成され、まずはどのような形が一番良いのかを行政として取りまとめるものである。おそらくは33年に県・市連携文化施設ができて、その後、芸術文化ゾーンあるいは中心市街地の活性化協議会などの組織や県民も交えてあり方検討の議論をし、34年以降にあるべき姿を実現していくという段取りとなっていくと考えている。

○打川部会長

交通についてであるが、秋田県が他県とのアクセスを考える時に、高速道路の2車線4車線の問題と秋田新幹線の単線複線の問題が議題となることが多い。どちらもボトルネックとなっており、そこが細いから運べる車も人も少ない。来る人がいないから本数が少なくて良いかという別の問題もある。秋田新幹線のフル規格は困難と思うが、なるべく多くの箇所での複線化は検討すべき項目なのではないか。

現状は行き違いで単線だから1時間1本でしか走れず、1時間で600人しか運べない。このぐらいの輸送能力で良いのかと疑問に思っている。

また、今回の施策に記載する必要はないが、奥羽南線や男鹿線などの第三セクター化など近い将来起こりうる可能性のあるテーマについてどのように考えているのか。

□高橋交通政策課長

現在のミニ新幹線である秋田新幹線の複線化については、方向性①の取組①と②「在来鉄道の充実強化」に関わってくると思うが、現実問題として、現在の輸送量でフル規格の整備の必要性という点や、在来鉄道には国の補助が入らないなど財源的な問題点もあり、なかなか難しいと考えている。ただ、県としても引き続きJRと協議していくのはもちろん、複線化だけでなく高速化という点についても継続した協議をしていく。

フル規格の整備新幹線を秋田・大曲間で先行して実施できれば、高速化のメリットが出てくるのではないかと考えているため、整備手法の検討に係る調査費等も予算計上している所であ

る。

奥羽南線と男鹿線の第三セクター化については、J R北海道が在来線の廃止を実施したようなことが当県でもあれば、バス代行となるのか県や市で第三セクター化するかといった検討となると思うが、現在J R秋田支所から近々に手を離すといった話は聞いていないため、少なくとも、この4年間の計画の中で検討項目を設けなくて良いと考えている。

○打川部会長

それでは最後に、「次第3（3）その他」として、委員の皆様や事務局から連絡等はあるか。

□益子観光戦略課長

当部会の第3回は8月29日に同じ13時30分から、このルポールみずほの「ききょう」で開催する。スケジュールを調整いただき、ご出席くださるようお願いする。

短いスケジュールとなっているため、会議だけではご意見をお伝えいただく時間が足りないことから、お気づきになった点等あれば、メール等で別途事務局にご連絡くだされば、できるだけ反映したいと思う。

第3回については、本日同様、たくさんのご意見、ご提言をいただくようお願いする。

□杉山観光戦略課戦略企画班長

以上で、秋田県総合政策審議会第2回人・もの交流拡大部会を閉会する。